

1. 事業の位置付け

事務事業名	市民ボランティア育成支援事業		
事業担当	市民部 協働推進課		
予算科目	01-030106-050000	事業種類	○ ハード      ● ソフト
総合計画の位置付け	02	基本目標2 子育て、長寿を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまち	
	02	②〈市民力〉 市民一人一人の主体的な参加により、地域で支え合う環境をつくる	
	02	2 一人一人が地域課題の解決に取り組むことができるしくみをつくる	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
多くの市民が市民活動に参加し、安心した暮らしを支えるボランティア活動を活発に行っています。		中高生向けのボランティア活動体験学習の「ユースボランティア」や定年退職をした市民及び定年退職を控えた市民のセカンドライフとしての市民活動参画のための講座の開催をします。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	ボランティア講座、交流会等開催回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績			7	10	12			
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	ユースボランティア参加者数						単位	人
	説明・算定式	-							
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績			110	115	120			
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成19年度の主な取組と成果									
青少年にボランティア活動を体験してもらい「ユースボランティア」を実施したり、定年退職を迎えた方、これから定年退職を迎える方を対象に、市民活動団体と直接交流できる場を設定し、「ユースボランティア」には113人の青少年が、また、交流会には77人、ボランティア博覧会には75人の市民の参加を得、ボランティア活動に対する関心を高めることができた。									
平成19年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民活動センターを拠点として、より多くの市民がボランティア活動に参加するための事業の実施が必要である。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	多くの市民がボランティア活動に参加するためには、事業を継続して実施することが有効である。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	ボランティア活動を行う市民を増やし、市民活動が活発に行われるために、ボランティア活動を体験したり、市民活動団体と交流できる事業は必要である。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	ボランティア体験や市民との交流に、市民活動団体が主体的にかかわっている。	● 高 ○ 中 ○ 低	

#### 今後に向けた課題の分析

ボランティア活動に参加することから、次の段階として、課題解決に取り組む仕組みづくりが重要となる。

### 3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成17年度 決算額	平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 予算額	平成21年度 計画額	平成22年度 計画額	平成23年度 計画額
事業内容				講座の開催	講座の開催	講座の開催		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	60	60	0	0
事業費 (A)		0	0	0	60	60	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	0.00				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.50	0.50	0.50	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	4,196	4,196	4,196	0	0
フルコスト (A+B)		0	0	4,196	4,256	4,256	0	0

### 4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

#### 平成21年度の事業の方向性

● 現状の規模で継続 ○ 拡大して継続 ○ 縮小して継続 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 終了 ○ 他事業と統合

#### <判断理由>

より多くの市民がボランティア活動に参加するためには、年齢層に応じた事業を継続して実施していくことが重要である。中高生にはボランティアを体験学習できる「ユースボランティア」、定年退職を迎えた方や、これから定年を迎える方には、ボランティア活動とは一体どのようなものか体験できる「ボランティア博覧会」といった事業を実施していく。

#### 平成21年度取組方針

多くの市民がボランティア、市民活動に参加する機会を持つために、現状の規模で継続していく。

#### 課長コメント

公益活動団体に所属する構成員の一人一人は、自発的なボランティア精神に基づいて活動している。地域での支え合いにはボランティアの存在は不可欠であり、さらに活躍が期待される。行政としても参加の機会創出やボランティア講座など側面支援は今後も必要と考えるため継続していきたい。